

やすらぎの会通信の送付について

やすらぎの会通信をご愛読の皆様、いかがお過ごしでしょうか。
今年の夏は、特別の暑さでしたが、皆様、元気に夏休みを終えることが出来ましたでしょうか。これから、夏休みの疲れが出るころです。皆様、体調管理に気を付けて水分、休養、室温にも気をつけてください。
やすらぎの会通信の161号が出来ましたので配信いたします。多くの方にお読みいただき少しでもお役に立てれば嬉しく思います。

やすらぎの会 代表 山 美弥子



第161回やすらぎの会通信

令和5年8月19日(土)実施

通信をご愛読の皆さん、いかがお過ごしですか？今年の夏も異常な暑さですが、誰かが「今や地球の温暖化ではなく、地球の沸騰化が進んでいる」と嘆いておられたことが印象的でした。干ばつ、大火災、大洪水と次から次と襲ってくる自然災害は、私たち人間に何を語りかけているのでしょうか？被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

「遊ばず、学ばず、働かず」の子どもですが？

無気力、無関心、無感動の子どもたちは、自分がある程度できると思っていたり、他人からそれなりに評価されていること以外は、自分からは何もせず、いつも言い訳がましく、「だって」「でも」「どうせ」と「三つのD」を使うのが特徴です。注意したり、脅したり、叱っても、その時だけ仕方なく動きますが、すぐに元に戻ってしまいます。それでは、遊ばず、学ばず、働かずの子どもに対して、親としてどうしたらいいのでしょうか？

三つのDの表現は、かつて所属する集団で恥をかいたり、屈辱を得たことによる心理的外傷体験が影響しているのかもしれませんが、それによって敗北や屈辱にあうのではないかと予想される場を避けているものと思われる。学業やスポーツ、家族や友人との交流を楽しいことと思わず、それらに恐怖すら感じ、本来すべきことから身を引き、無為に過ごすことを習慣化しているといえます。「心が傷ついている、今は仮の姿」という理解が必要なかもしれません。遊ばず、学ばず、働かずの子どもたちも同様な気がいたします。

そこで、三つのDに対して、「せつかく」「そうなのか」「ステキだなあ」の「三つのS」を使ってみてはいかがでしょうか。「せつかく早起きしたのだから、一緒に朝ごはんを食べてみないか」「そうなのか、あなたはそう感じたんだねえ」「今日はすつきりした顔をしてステキだなあ」など、こうしたことを意識して子どもに語りかけるようにしますと、わが子はハツとして自分を見つめ直す機会を得ることができると思います。三つのSは、わが子に対してより肯定的にかかわる魔法の言葉になるかもしれませんよ。

わずかでも子どもに変化が起き、わが子がふだんと少しでも異なる行動を示したら、それを見逃さずとらえ、それをたつぷりほめるようにします。個人差はあるものの、人間には「自分を認めてほしい」とか「自分を受け入れてほしい」という承認欲求や受容欲求があります。だからといって、何でもかんでも迎合することはできませんが、子どもにプラスの変化が見られたら決して見逃さないように心がけてみて下さい。

こうしたことを意図的に心がけていると、必ずと言っていいほど子どもに変化が出てきます。子どもに変化が見られるようになったら、積極的に話しかけて言葉のキャッチボールができればいいですね。子どもとの会話が途絶えるようになってから、親が子どもに毎朝返事のないラインを3年間送り続けたそうです。そしたら、ある時「ありがとう」という返事が返って来たそうですが、それを見た親は涙が止まらなかったとのこと。子どもとの言葉のキャッチボール、心のキャッチボールの大切さをしみじみと痛感されたとのこと。親子の言葉のキャッチボールができないことほど辛いものはないということですね。(高)



【8月の学習会】

やすらぎの会通信をご愛読の皆様いかがお過ごしでしょうか。8月も下旬になりましたが、いつまでも暑くてエアコンが外せませんね、ほとんど一日中つけています。そんな毎日ですが、空を見ると秋の雲が浮かんでいたり、夜には虫の声が聞こえたりします。日中は茹だるような暑さが続いています。季節は秋に向かっていくことにホッとしました。私は、気持ちぐささぎ込んだりすると、近所を散歩して気分転換をします。空を見たり、虫の声を聞いたりしてみませんか。

今回も自分の息子のことで恐縮です。小学6年生から不登校になりましたが、その後一年一年元気になる、そろそろ学校に行けるかと思うようになったと思いきや、担任の先生からは「お母さん、焦ってもダメや」と言われ、「まだ、焦ったらダメなんや」と思い、気を引き締めました。やすらぎの会9周年の記念講演会のテーマが「人一倍敏感な子どもHSCについて」でしたが、高先生のお話をお聞きして、息子はHSC(敏感な子ども)ではないかと思えます。

確かに食べ物にも人にも好き嫌いがあつたりします。アルバイトをしようと思うと、アルバイト先でどんな風に見られるかとても不安になるようで、未だに社会に出られていないのですが、コロナが落ち着いてきて、「このままじゃいかんと思う」と言っていた言葉が頭に強く残っています。中学3年の時に、「こんな俺を見捨てることなく、ここまで育ててくれてありがとう。感謝しています」と言ってくれました。息子のできるインターネットのやり取りや問い合わせなどは、息子に頼っております。歯医者さんも自分で調べて一人で行って治療しています。

また、ゲーム仲間からも色々と学んでいるようですし、小学6年生で不登校だった息子ですが、それなりに大人になってくれたと喜んでいきます。最初のころは、早く早く登校してほしいと思っていましたが、息子が高校を卒業するような年齢になった頃から、社会には出れていないけど、人間としてそれなりに成長しているようですし、いい感じに育っていると思っています。(山)

お 知 ら せ

今後の日程	学習会	9月16日(土)13時~17時(出城公民館)
	山カフェ	9月9日(土)19時半~(ココス松任相ノ木店)

高先生からのお知らせ

5月下旬に、やすらぎの会13回記念講演会「いじめ問題の対応について」がりましたが

日本学校教育相談学会石川支部より講演要請があり、保護者+スクールカウンセラーの視点から講演を行うことになりました。日程等は以下の通りですが、前回講演を聞くことができなかった方、興味関心のある方は、ぜひご参加下さるようお願いいたします。

日 時：8月26日(土)13時半~16時半(参加費無料、予約なし参加可能)

場 所：金沢市富樫教育プラザ211号室

講演テーマ：「いじめ問題の対応について - 保護者+スクールカウンセラーの視点から -」

講 師：金沢学院大学特任教授 高 賢一 先生